

楽園だより



今までの暮らしが変わる。玄関から、ほっとする家。

2023年 7月1日 No.73

Our Works

UA=0.36W/m²K C=0.3 cm²/m²

『ゆったり暮らせる家』(恵那市)

2023年春 完成



南側屋根に太陽光が載ったゼロエネ住宅です(写真は北側です)



階段と吹抜けの手すりはお施主様作
びったりと納まりました

お施主様の声



家の中が寒くなく、本当に快適です。これが高断熱高気密住宅かと驚いています。快適な住まいにしたいと、あれこれ勉強してから家づくりに臨みましたが、今思えば、素人が悩むより歴史も実績もある楽園住宅さんにお任せするのが近道でした。設計や現場監督の方の誠実で的確なアドバイスもあり、家づくりはとても楽しい時間でした。

住宅に求める理想が盛りだくさんの私たち夫婦でしたが、期待以上の完成度に大満足です。これから始まる夏も、今までと違い涼しく過ごせると思うと楽しみです。



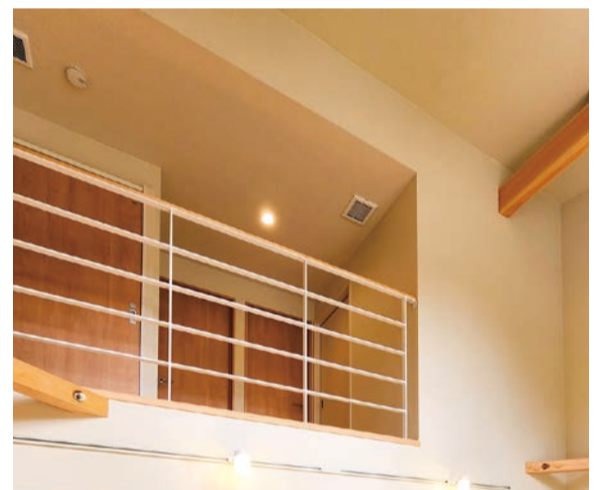
グレーの外壁に玄関ドアがよく映えます
表札はお施主様作です



2F 子供室は2室に分けると
4.5帖ずつの広さです



奥からシューズクローゼット、
パントリー、キッチンへとつながる動線



リビングは吹抜けで大空間に

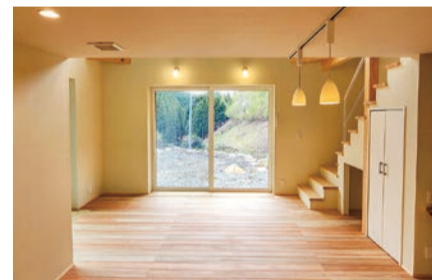
設計担当者から



すまい塾から家づくりがスタートしました。計画時には、ご自身のノウハウを活かした換気設備の選定に、一次エネルギー消費量計算もご自身で行われました。工事が始まってからは、階段・吹抜けの手摺を製作されるなど、あらゆる場面において一緒に家づくりをさせていただきました。楽園住宅としても楽しい家づくりでした。本当にありがとうございました。



3帖の脱衣・洗濯室
洗濯機横にあるのが床下エアコンです



キッチン側から見たリビング
2面開口で明るい!

宿泊体験モデルハウスのご案内 年中快適



住所: 恵那市長島町正家一丁目11番地1

長く暮らす「家」だからこそ 住み心地を体感しよう!
無料宿泊体験できます!



七夕の夜にだけ会える織姫と彦星。
2人の再会のために、天の川に橋を
かける鳥は何の鳥でしょうか?



- ① 鷹
- ② カラス
- ③ カササギ

答えは楽園住宅ホームページをご覧ください

楽園住宅



『ドイツパッシブハウス認定
コンサルタントのいる工務店』
恵那市長島町正家一丁目5番地5
TEL 0573-26-5122

楽園住宅

公式LINEはじめました!

@azj8127w



ご意見・ご質問ございましたら、なんでもお問い合わせください!! また、こんな事本気でやって欲しい! ということがございましたらぜひ、リクエストお願いいたします。



楽園住宅



—高断熱・高気密住宅との出会い①—

人生の残り時間が少なくなって来ました。何故、東濃地域で高断熱・高気密住宅が普及して来たか経緯を記録しておこうと思い、これから数回にわたって連載させていただきます。私は1952年に東京で生まれました。46年前、24歳の時に岐阜県恵那市に移り住みました。当時は地球温暖化の話はなく、恵那市で氷点下15℃を記録したことを覚えています。最近では氷点下6℃でも「今朝は冷え込んだ」と挨拶します。昭和52年、滅多に氷が張らない東京から引っ越してきた人間には冬場、連日氷点下の恵那は寒さが身に染みて堪えました。ましてや断熱の「だ」の字もない時代。冬、土壁の隙間から外が見えるような家に住んで、前夜の湯飲みに残ったお茶が翌朝凍っていたのを覚えています。そんな環境へいきなり入って、なんとか暖かい家に住みたいという思いがありました。

◆フィンランドで初めて 防湿フィルムとグラスウールの組み合わせを知る

いろいろな断熱工法が世の中に出て来たのが今から40年程前です。当時は密度10kg/m³厚さ50mmのグラスウール断熱材はありましたが、大工には「ちくちく刺さるので」使いたくない建築材料でした。その後、高気密・高断熱という言葉も世の中に出始めた頃です。

そんな時にフィンランドへオーロラを見に行く機会があり、北極圏の小さな村に建っている木造平屋のロッジでカルチャーショックを受けました。外気温は氷点下30℃なのですが室温は20℃以上で、部屋にはストーブがありません。暖房をどうしているのか、暖房設備を部屋中探しました。そこには木製の3重サッシが使われていましたが、その窓の下に窓ガラスが結露しないように温水ラジエーターが付いていました。考えるとそのラジエーターが唯一の暖房器具でした。今では分かりますが、部屋から逃げる熱の分だけ熱を加えてやれば室温は保てることになります。建物の建つ場所の外気温と室温の温度差を補う熱源があることと、温度差による空気の漏れを防ぐ気密性能があれば、室温は維持できることになります。補う熱を少なくするためには、断熱・気密性能を高くすることが必要になります。帰国時にどんな断熱工事をしているか興味があったので、ヘルシンキで幼稚園の工事現場を見学しました。その工事現場で初めて防湿シート(ポリエチレン0.2mm厚)とグラスウールを組み合わせた断熱施工をみました。ヘルシンキの現場では、壁の断熱材が300mm・天井、500mmとその厚さに驚きました。北極圏で見たロッジは、もっと断熱材が厚かったのかもしれませんが。工事現場には、現場に暖気を送る暖房設備が入ったコンテナがあり、半袖のシャツで大工が仕事をしているのに驚きました。

◆何故、北欧の断熱技術が日本に普及したのか？

いろいろある断熱工法の中で楽園住宅は 新在来木造構法(北欧の断熱工法が基)になったか？

楽園住宅の断熱工法も、防湿シートとグラスウールの組み合わせが基本になっています。蒸暑地では、冷房期の壁体内結露を防止する為に可変透湿防水シートにしています。また、現在使われているグラスウールは、繊維が細く密度も高くなり性能が良くなっています。

この工法は当時、日本からスウェーデンのルンド大学へ留学された室蘭工業大学名誉教授の鎌田紀彦先生が、北欧の断熱工法を日本の在来軸組構法で施工できるように技術開発されて「新在来木造構法」として普及して来ました。弊社が「新在来木造構法」に至るまでには今回、解体した事務所採用したウレタンパネル工法等、いろいろな断熱工法を検討しました。どの工法も断熱材メーカーが推奨していて、一長一短があり性能も限られてしまうケースがほとんどでした。

◆高断熱の住宅には断熱材の他に高性能サッシ・換気システム等の専用部材が必要です。

先程のフィンランドの木製3重サッシを始め、カナダやアメリカ・欧州では他に樹脂サッシだけで、熱伝導の良いアルミはサッシには使われていませんでした。そこで木製サッシをカナダから輸入して、取り壊した楽園住宅の事務所では採用しました。その後、国内メーカーの信頼できる品質の樹脂サッシを探しました。当時、欧州の技術で本格的な樹脂サッシを製造していたのは、現在も弊社が採用しているエクセルシャノンだけでした。当時、エクセルシャノン営業マンの高橋正英さんから、室蘭工業大学の鎌田先生が主宰する「新木造住宅技術研究協議会」の勉強会を紹介してもらいました。そこで、フィンランドで見た断熱構法を日本の在来構法に取り入れた「新在来木造構法」と出会いました。この構法は、メーカーに関係なく断熱材(繊維系断熱材が基本)やサッシ・換気システムの性能を組み合わせることで目指す性能の建物を建築できます。



※北極圏をイメージした写真です

楽園住宅のちょこっと話

身の回りで起こったこわい話

友達からショッキングな話を聞きました。友達の家では5年前からセキセイインコを二羽飼っていたのですが、二羽とも突然死したそうなんです。娘さんと息子さんと世話をされていたそうで、特に息子さんのショックは大きかったそうです。突然死の原因は、猛毒の神経ガスを吸引してしまったことだそうです。この猛毒ガス、実はこのお宅の居間で発生したそうで、一歩間違えればご家族にも被害が及んでいたかもしれないとのこと。

どうしてそのような危険なガス事故が起こったのでしょうか？

その原因は、フライパンのフッ素樹脂加工でした。フッ素樹脂加工したフライパンを熱すると、フッ素化合物が気化して、猛毒の神経ガスが出るのです。

こんなことを皆様はご存じでしたか？私は知りませんでした。EUでもアメリカでも、このフッ素樹脂加工は危険であるということで、法律で販売を禁止され、代替品に置き換わっているそうです。日本では、法律の縛りがないので、大手メーカーからも販売されています。この神経ガスは空気より重いので、足元に溜まります。我が家では、12月に生まれたばかりの赤ちゃんがおり、この話を聞いてこれがもし我が家でのことだったら！と青ざめました。

フッ素加工のフライパンを使用する場合は、以下のことに注意してください。

- フライパンの空焚きをしないように気をつける
- 水分を飛ばすためなどの空焚きはしない
- 空焚き状態となったら、気づいた時点ですぐに火を止め、窓を開けて換気する
- 体に異常を感じた場合は、すぐに医師に相談する



そもそもSDGsってなんだろう？

SDGsってよく聞くけど、そもそも何なのかよくわかってない方も多いと思います。SDGsとは、Sustainable Development Goalsの頭文字を取っています。

意味は持続可能な開発目標です。なかなか難しいですね。

一言で言うと、「この地球に住むみんなが、ずっと平和で幸せに暮らせるように」するための目標。

地球では年々人口が増えています。これからはもっとたくさんの人が地球で暮らすことになり、同時に今まで以上に食べ物が必要になります。そして今のように便利な暮らしをし続けると、地球を暖めるガスがどんどん出て、その影響で気候もおかしくなって作物が作れなくなったりと、私たちを取り巻く環境が悪化していきます。私たちはいつまでも安心安全に暮らしたいと思っていますが、こうした環境問題のほか、貧困、差別など、たくさん問題があります。こういった問題を解決、改善し、みんなが誰一人取り残されることなく、これからも幸せに暮らし続けていくためにみんな協力して行動しよう！と、目指すべき17の目標が2015年に国連で決められたのです。

私たちの仕事では木を扱っております。木の呼吸で新鮮な酸素ができ、温暖化の原因の二酸化炭素を吸って閉じ込めてくれます。

この木を活用して住みやすい環境をみなさんとつくりたいと思っております。



----- エアコン1台で家中どこでも快適な空間をぜひ体感して下さい -----

体感見学随時受付中！

恵那市長島町正家一丁目5番地5
TEL 0573-26-5122

楽園住宅

